

# 歴史を歩く

## 64

～未知なる歴史が探究心をかき立てる地域(永吉地区)～  
 おおさきの歴史を旅してみませんか③④  
 ⑥



### 26 新調堀の水神

『明治四十三年(1910年)』の銘がある。石祠の左側には小さな石祠があり、旧水神といわれている。

日常生活や稲作に不可欠な『水』を司る水神を大切に祀ったものである。



### 25 新調堀のはやまどん

牛馬の健康と安全を願って祀られた神。牛馬の守護神として祀られる『はやまどん』は鹿児島地方独特(薩摩藩島津領)のものであると考えられている。

石祠に向かって右側の石造物には『常夜燈<sup>ぶんか</sup>文化十年(1813年)』、左側の石造物には『奉寄進 郷内安全文化十二年(1815年)』の銘がある。

以前は500メートルほど南にあったが、昭和初期に現在地へ移った。

### 27 キリシマドン

薩摩藩内の農村では、霧島山への信仰から『霧島講』が行われていた。

この石祠は、霧島神宮<sup>かみじょう</sup>から勧請し祀られたものといわれている。

※講=特定の信仰によって集まった組織



### 28 月補山<sup>けいりんじ</sup>桂林寺跡

詳細は不明。

文政7年(1824年)に編纂された『大崎名勝誌』には、以前にあったお寺として記されている。『翁松寺(木入道・曹洞宗)』の末寺、永吉村内の新調堀という所に建っていた』とある。

敷地内と考えられる場所には、僧の墓が数基残っている。



### 29 大歳宮

詳細は不明。

大歳宮の祭神の大歳神<sup>おおとしのかみ</sup>(大年神)は、須佐之男命<sup>すさのおのみこと</sup>の子で、稲の実りを守る穀物神。

家内安全や五穀豊穡を祈願し祀られたと考えられる。

